

**平成24年ゴールデンウィークにおける主な観光施設等の利用状況について**

平成24年ゴールデンウィークに県内の主な観光地を訪れた観光客の状況について、次のとおりまとめました。

調査目的： ゴールデンウィーク期間中の観光客の傾向を調査し、今後の観光振興施策や観光事業関係者の事業展開の参考資料とする。

調査地点： 県内主要観光施設利用状況、市町村イベント等の動員数 65地点  
(参考調査) 高速道路、有料道路利用台数調査

集計期間： 平成24年4月28日(土)～5月6日(日)の9日間

観光客数： **延べ 120万人 (前年比 約4万1千人増、3.5%増)**

**1 概 況**

- 県内の主な観光施設・イベント(65地点)を訪れた観光客数は合計120万人で、前年より約4万1千人増加した(前年比は103.5%)。
- 平成23年は東日本大震災の影響が大きいため(H23の対H22比6.8%減)、それ以前の平成22年と比較した場合は約6千人減少した(前々年比は99.5%)。
- 今年のゴールデンウィークは、中2日の平日をはさみ、前半の3連休と後半の4連休に分かれた曜日配列であった。期間の半ば以降は天候に恵まれなかったこともあり、花をテーマとした公園や、祭り等のイベントで客足が伸び悩んだところが多かったが、ヴァンフォーレ甲府のホームゲームが昨年よりも1試合多く開催された小瀬スポーツ公園では大幅に増加がみられた。
- 天候が不順であったにもかかわらず、山や高原等の自然に関する観光地点では増加がみられた。また、天候条件の影響を受けにくい美術館等の歴史・文化に関する屋内施設や、地域の物産等の買物を楽しめる直売所等においても増加した。一方、高速道路無料化が終了した路線を中心に、高速道路の利用者が減少したこともあって、一部の道の駅等では利用者が減少した。
- 本県全体としては、旅行者の「海よりも山へ」という傾向もあって、震災の影響をほぼ脱しつつあるとみられるが、天候の不順等の影響もあり、震災前の平成22年の水準までは回復していない。

## 2 各圏域別の状況

※太字の施設は入込数記載（別紙「資料」）

### 【峡 中】

- ・ 峡中圏域所在の対象施設等に係る観光客数は、前年比 105.5%と増加した。
- ・ 天候不順の日が多かったため、「**愛宕山こどもの国**」や「**正の木祭り**」等の屋外施設・イベントでは減少がみられたが、「**山梨県立美術館**」や「**やまなみの湯**」等の屋内施設では大幅に増加し、震災前の平成22年の実績を上回った施設もあった。
- ・ ヴァンフォーレ甲府のホームゲームが2試合あった「**小瀬スポーツ公園**」でも大幅に増加した。
- ・ 全体としては、天候不順等によって増加した施設と減少した施設が分かれる結果となった。

### 【峡 東】

- ・ 峡東圏域所在の対象施設等に係る観光客数は前年比92.2%と減少した。
- ・ 天候不順の影響により、スポーツ・レクリエーション施設（「**山梨県森林公園金川の森**」等）で大幅に減少した。
- ・ 「**道の駅みとみ**」や「**根津記念館**」等でも客数減少がみられたが、各施設では減少の理由として天候不順をあげており、同じく客足が伸び悩んだ「**山梨県立博物館**」とあわせて峡東圏域の客数を押し下げる形となった。

### 【峡 南】

- ・ 峡南圏域所在の対象施設等に係る観光客数は前年比 108.5%と増加した。
- ・ 昨年も堅調な伸びを示した「**甲斐黄金村湯之奥金山博物館**」及び「**道の駅富士川ふるさと工芸館**」、「**みたまの湯**」が引き続き堅調に増加した。
- ・ 昨年、団体ツアー客の減少の影響を受けた施設や伸び悩んだ物販関連の施設で今年は増加がみられた。
- ・ 全体としては、屋内施設を中心に震災前の水準を上回るまで回復している。

### 【峡 北】

- ・ 峡北圏域所在の対象施設等に係る観光客数は、前年比 113.7%と増加した。
- ・ 「**サントリー白州蒸留所**」や「**山梨県立まきば公園**」等、屋内施設・屋外施設ともに集客の大きい施設で大幅に増加している。これらの施設は平成22年実績と比較しても20%程度増加しており、非常に好調であった。
- ・ 昨年の調査でも客数が前年より増加していた峡北圏だが、今年の調査でも観光客の集客が好調であり、天候が不順であったにもかかわらず、大きく増加した。

### 【富士・東部】

- ・ 富士・東部圏域所在の対象施設等に係る観光客数は、前年比97.6%と減少した。
- ・ 「**山梨県立富士湧水の里水族館**」等の歴史・文化・自然に関する施設を中心に増加した施設がみられたが、「**山中湖花の都公園**」等の花をテーマにした施設・イベントでは、4月の低温等で開花が遅れた影響や、連休後半の天候不順の影響で減少した。
- ・ 全体としては、震災の影響を強く受けた昨年からの反動があり、歴史・文化・自然に関する施設を中心に増加したが、中央道富士吉田線の高速道路無料化が終了したことや天候が不順であったことなどの影響を受け、前年より減少した。